

物価上昇の良し悪しって？

～資源価格高騰で懸念される購買力低下～

経済調査部 柵山 順子

良い物価上昇、悪い物価上昇？

消費者物価上昇率のプラス転化が見えてきましたが（資料1）、今回は悪い物価上昇でデフレ脱却とはいえないとされます。そもそも物価上昇の良し悪しとはどういう事なのでしょうか？

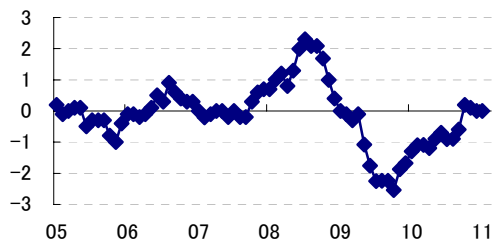
物価は「景気の体温計」とも言われ、景気が良くなり消費が増えると、生産が足りず物価が上昇するというように、景気を反映します。こうした場合には、製品価格と売上数量がともに伸びるため、売上や利益が増加、賃金が上昇してさらに消費が拡大するというように景気拡大が続きます（資料2）。しかし、今回の物価上昇は原材料価格高騰が主因のため、賃金が増えず、消費（売上数量）を押し下げます。そして企業収益が減少すると、原料高の影響も重なり賃金が抑制され、消費がさらに縮小するというように負の連鎖が続きます。そのため、今回のような物価上昇は、「悪い物価上昇」と分類されます。

資源価格高騰で日本の購買力は低下

資源価格の上昇は、資源の多くを輸入する日本にとって大問題です。資料3の通り、今回の物価上昇では原料費として海外に払うお金が増える一方で、日本車などの輸出製品の価格が上がらなければ海外から企業に入るお金は増えず、企業は人件費を抑えようとするでしょう。

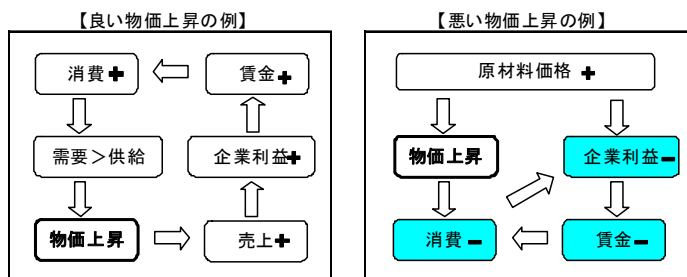
このように輸入品の価格が輸出品に対して相対的に上昇し、1単位の輸出で賄える輸入が減る（＝購買力の低下）ことを交易条件が悪化するといいい、これで失った購買力を交易損失と呼びます。2008年の資源価格高騰時には交易損失は27兆円に及び、こうした購買力の喪失が実感なき景気回復の一因とされました（資料4）。今回も景気への影響が懸念されます。

資料1 高まる消費者物価上昇率（前年比、%）

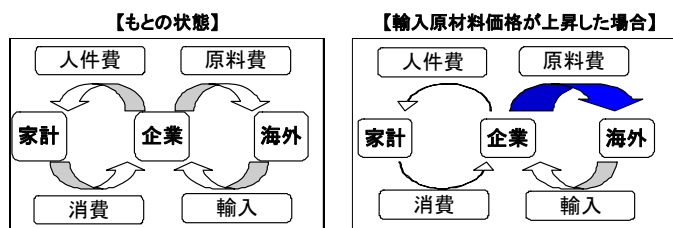


（出所）総務省「消費者物価指数」

資料2 良い物価上昇、悪い物価上昇

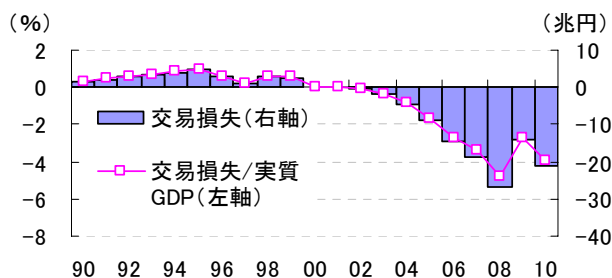


資料3 原料高騰時には企業は海外への支払いが増加



（出所）資料2、3ともに筆者作成

資料4 資源価格高騰で拡大する交易損失（2000年基準）



（出所）内閣府「国民経済計算」